

(様式1)

校 種	小 ・ 中	学校番号	6 5	学校名	宇都宮市立田原小学校
-----	-------	------	-----	-----	------------

令和7年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

豊かな心や健やかな体をもち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

○かしこく	○なかよく	○元気よく
よく考え がんばりぬく子ども	すなおで 思いやりのある子ども	じょうぶで 明るい子ども

2 学校経営の理念

全教職員の高い資質能力と協働性、家庭・地域との信頼関係を基盤とした、充実した学校経営を実践するための「豊かなふれあいと活力に満ち、笑顔あふれる、魅力ある学校」を目指す。

【目指す学校の具体像】豊かなふれあいと活力に満ち、笑顔あふれる、魅力ある学校

○活気・喜び・笑顔のある学校

○児童と教職員一人一人が生き生きと主体的に活動している学校

○自他のよさを認め合える居がいのある学校

○地域の自然・文化とのふれあいや多様な学び合いの場がある学校

○児童・保護者・地域から信頼される学校

【目指す教職員像】自信と誇りをもち、自己の資質能力と協働性を高め続ける教職員

○豊かな人間性と思いやりがあり、教育的愛情と使命感をもつ教職員

○高い指導力と専門性を身に付けるため、自己研鑽に努める教職員

○本校教職員としての自覚と責任をもち、チームとして協力し合う教職員

○児童と向き合う時間を確保し、ワークライフバランスの実現に努める教職員

3 学校経営の方針

次代を担う児童一人一人が、社会的自立を果たして未来を創造的に生きていく力を身に付けることができるよう、教職員がそれぞれの持ち味を発揮しながら、家庭・地域と連携し、共に本校の教育を担う者として英知と熱意を結集することにより、一体感のある活力に満ちた教育活動を展開する。

また、全ての児童の可能性を引き出し、一人一人の多様な幸せを実現するため、「児童が主体」となる教育活動を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることにより、教育目標の達成を目指し、あるべき学校教育の姿を追求し続ける。

(1) 居がいのある学校づくり

児童・教職員・保護者・地域・ボランティアなど、学校に関わる誰もが自己存在感、自己有用感を実感できる学校づくりに努める。

(2) 創意ある教育課程の編成と地域とともにある学校づくり

児童・学校・地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた創意ある教育課程を編成し、教育目標の実現に努める。また、伝統ある校風を基盤に、地域学校園や魅力ある学校

づくり地域協議会と連携を図りながら、地域の豊かな教育力を生かした教育活動を推進するとともに、家庭や地域の声を学校評価に生かし、学校経営の改善に努める。

(3) 生きる力と社会性を育む教育実践

確かな学力と豊かな心、そして健やかな体をバランスよく育成するとともに、個人的資質及び公民的資質の伸長を図る。学校での学びを児童の将来につなぐことを意識し、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え判断して行動することのできる力」を、カリキュラム・マネジメントを通して全教育活動で育成するよう努める。

(4) 自己研鑽と組織的な学校運営の推進

教職員の心身の健康の保持増進を図るとともに、教育の質の向上と児童の健全な成長を目指すため、協働性と自律性のある学校組織力を高めつつ、勤務時間を意識した望ましい働き方を基盤とした学校運営に努める。

[田原地域学校園教育ビジョン]

自立をめざしながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 地域の豊かな自然や文化、人材等の教育資源を最大限に活用し、郷土への誇りや愛着心を育むとともに、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童の育成を目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できる編成に努める。
- (2) カリキュラム・マネジメントを通して、「自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心」、「たくましく生きるための健康・体力」等、児童の「生きる力」の育成に重点を置き、学校生活に変化と潤いをもたせるような編成に努める。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

- ◇ 「多笑プロジェクト」として、学校経営の重点を分かりやすく示し、教職員・児童・家庭・地域との共有を図る。
 - ・ 「学びのプロジェクト」「心のプロジェクト」「健やかプロジェクト」「たわらプロジェクト」の4つの柱において、目指す児童の姿とそれに向けた取組を明確にする。
 - ・ 全教育活動を通して、「目標をもち、それに向かって主体的に取り組むことのできる児童」の育成に、特に力点を置いて取り組む。
- ◇ 地域の自然や文化を教材とした系統的・体系的な学びを通して、ねらいを明確にした特色ある体験活動及び宇都宮学の充実を図り、郷土愛の心を育てるとともに、学校・家庭・地域の三者による組織の活性化と相互協力による児童主体の教育実践を推進する。
 - ・ 積極的な情報発信や学校公開により、教育活動の理解促進に努める。
- 地域学校園における各部会の連動・連携した教育実践に取り組み、学校力の向上を図る。
- ◇ ワークライフバランスを意識した働き方を基盤に、教職員一人一人の働き甲斐に満ちた職場環境の実現を目指す。
 - ・ 学校リフレッシュデーの設定と運用
 - ・ 出退勤時刻の把握を通じたマネジメントの実践
- ◇ 教職員一人一人がそれぞれの持ち味を最大限に発揮し、学校組織力の向上を図る。
 - ・ 教職員の当事者意識を尊重した業務改善（児童と向き合う時間確保のための工夫・改善）
 - ・ 何事もチームとして対応し、それに伴う校内 OJT の積極的な推進

(2) 学習指導

◇ わかった！ できた！ もっとやりたい！ わくわくする学びのサイクル
学びのプロジェクト「児童自身が『学びの主体』になる授業づくり」

- ・ 児童の学習状況を的確に分析・把握することにより、個々の学習課題及び学年・学校課題を設定し、「田原っ子の学び」の実践、教師の専門性を生かした教科担任制、少人数指導の充実を通して、基礎・基本の確実な習得と活用及び主体的に学ぶ態度の育成を図る。
- ・ 読解力や思考力・表現力の育成を目指し、問題解決的な学習や協働的な学習活動、言語活動等、カリキュラム・マネジメントを通した教科横断的な学習活動の充実を図る。
- ・ 「宮・未来キャリア・パスポート」を有効に活用することで、児童が自己の変容や成長を実感し、新たな夢や目標につなげたり将来の生き方を考えたりすることができるようにし、主体的に学びに向かう力や自己管理能力の育成を図る。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究体制を整備し、教職員の授業力・コーディネート力の向上を目指し、PDCA サイクルによる積極的な授業改善を図る。

(3) 児童生徒指導

◇ 自分大好き、友達大好き、思いやりあふれる学校生活

心のプロジェクト「心の教育の推進～一人一人が輝く学級づくり～」

- ・ 継続的な自己評価や個人内評価により、自ら規律ある生活を実践する態度を育成する。
- ・ 学校生活における道德教育及びその要となる「道德科」の充実に努め、道德的実践力を高めるとともに、自ら道德性を追求する力を育成する。
- ・ 集団的な問題解決活動や、児童相互の認め合い、高め合いが実現できる場の設定、他者と関わる多様な交流活動や体験活動の実践を通して、一人一人のよさが生きる自治的な集団・学級づくりの充実を図るとともに、自信や自己有用感を高め自己実現力を育成する。

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

◇ 自分自身を見つめて、よりたくましい自分へ

健やかプロジェクト「体力の向上・安全教育」「保健教育・食育の推進」

- ・ 体育の授業における運動量の確保、休み時間における外遊びの推奨、目標設定とスモールステップによる運動技能の習得と意欲の向上等、体育的活動の充実により体力の向上を図り、健康な生活を実現する力を育む。
- 児童の実態や傾向の分析・把握をもとに、健康・体力・食に関する指導を統合した健康指導の充実を図り、9年間を通して望ましい生活習慣を身に付けさせる。
- ・ 学習と生活に関連付けた体験的活動の充実により、学習内容を日常生活に活かすことができる可能性に気付かせ、「自らより健康的で安全な生活を創造する力」「自らの命を守るための危険予測・回避能力」を育成する。

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

全学年共通のねらいを「豊かな感性と郷土愛を育む」とし、「目指す姿」を以下のように設定する。

○1・2年【事象への気付き】

ふるさとの自然や文化のよさに気付き、大切にしようとする。

○3・4年【人への気付き】

ふるさとの自然や文化がたくさんの人たちの力で受け継がれていることに気付き、自分にもできることを考え、実践しようとする。

○5・6年【自分への気付き】

ふるさとの自然や文化を受け継ぐことの大切さに気付き、実践を通して将来の生き方の展望をもとうとする。

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

◇たわらプロジェクト

～地域とともにある学校づくり～「田原」大好き！ふるさとへの感謝と誇り

○地域人材を活用した「ふるさとの自然や文化に誇りをもち、未来を創る学び」

【第1期】春～夏の田原「ふるさとの自然や文化の営みにふれよう！」

- ・学校農園でのさつまいもの植え付け
- ・校内・山田川遊歩道での花の苗植え
- ・学校水田での米作り（苗床作り・田植え）
- ・町たんけん・逆面探検

【第2期】秋の田原「ふるさとの自然や文化の豊かさを感じよう！」

- ・学校農園でのさつまいもの収穫
- ・校内・山田川遊歩道での花の植え替え
- ・学校水田での米作り（稲刈り・脱穀・収穫米の会食）
- ・チューリップ球根植え

【第3期】冬～春の田原「ふるさとの自然や文化の恵みに感謝しよう！」

- ・オープンスクールにおける「獅子舞体操」の披露
- ・獅子舞に関する道徳科授業
- ・探鳥会（山田川沿い）
- ・昔遊び体験
- ・和太鼓・三味線・箏の体験
- ・お世話になった地域の方々への感謝の会

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）

①基本的考え

伝統ある校風を基盤に、児童と地域の実態や思いを踏まえるとともに、魅力協・PTAと連携を図りながら、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。

②主な取組

ア 外部講師・地域人材を活用した体験活動の充実

「ふるさとの自然や文化に誇りをもち、未来を創る学び」の体系的取組、宇都宮学の充実

- ・学校行事における伝統伝承、勤労生産等の体験活動
- ・生活科・総合的な学習の時間・各教科等における地域の自然や文化の探究活動、キャリア形成にかかわる活動
- ・キャリアパスポートの効果的活用

イ 学区内幼稚園・保育園との交流の促進

ウ 保護者や地域と連携したオープンスクールの実施

エ H Pや各種たより等、積極的な情報発信による理解促進、学校評価の活用

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

地域学校園各部会・分科会における連携を図りながら、9年間の学びを通じた教育活動を実践し、「自立をめざしながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成」のための取組を推進する。

②主な取組

ア 情報共有、協働活動など小中連携の一層の充実

- ・ 9年間を見通した健康教育・食育活動の展開（統一献立・お弁当の日、・へるしープロジェクト、学校園健康教室）
- ・ 豊かな心を育む活動の展開（合同あいさつ運動、読書活動の共有）
- ・ 事務室の効率化、合同授業研究会等の研修機会の充実
- ・ 特別支援学級の交流推進

イ 地域協議会との連携

- ・ あいさつ標語の表彰と入選作品の掲示
- ・ 合同教育講演会の開催

(3) 不登校対策

①基本的考え

不登校に対する教職員一人一人の意識を高めるとともに、常に児童に寄り添い、児童理解に努めることを通して、未然防止や早期発見・早期対応に取り組む。

また、多様・複雑な不登校の要因や背景を的確に把握するとともに、学校関係者や家庭必要に応じて関係機関が情報共有し、組織的・計画的かつ児童に応じたきめ細やかな支援策を講じることができる体制を構築する。

②主な取組

ア 学校組織としての取組

- ・ 毎月の校内児童指導連絡会及び学校園児童生徒指導強化連絡会における情報の共有
- ・ いじめ等対策委員会の定期開催
- ・ 随時ケース会議の開催及びそのための組織編成

イ 未然防止の取組

- ・ Q-U結果の有効な活用を図るための校内研修の実施
- ・ 学級経営の充実（安心して過ごせる居場所づくり）と一人一人を生かす授業づくり
- ・ 心のSOSが出せる児童の育成

ウ 早期発見・早期対応の取組

- ・ 欠席状況共有シートの活用
- ・ おしゃべりタイム（定期教育相談）やチャンス相談の実施
- ・ 1人1台端末を活用した支援

(4) GIGAスクール構想

①基本的考え

児童一人一人に応じた探究的・協働的な学びの実現を目指し、各学年の発達段階や実態に応じた個々の基礎スキルの向上と活用の日常化を図る。

また、スキルの定着度により協働的な学びのツールとしてもステップアップを目指す。

②主な取組

ア 基礎的な操作・活用スキルの習熟

- ・ 各種検索サイトやデジタルコンテンツ等を活用した学習の日常的取組
- ・ ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの積極的活用

- ・ A I 型ドリル教材の活用による個に応じた教科内容の習熟

イ 協働学習ソフト活用へのステップアップ

- ・ 資料やレポート、成果物の共有及び意見交換等、協働的な学びへの積極的導入と活用

(5) 宇都宮学

①基本的考え

社会科及び総合的な学習の時間、特別活動を核として、本校が進める「ふるさとの自然や文化に誇りをもち、未来を創る学び」との関連を図り、「身近な田原地区と宇都宮市」「宇都宮市と栃木県」「宇都宮市と国内他地域や他国」を比較したり関連付けたりする視点を意図的に取り入れることにより、郷土に対する理解を深め、郷土愛の醸成を図る。

②主な取組

ア 自分たちの住む田原地区の自然や文化の理解

- ・ 地域人材を活用した各種体験活動及び地域探究学習の積極的实施と振り返りの充実

イ 宇都宮市全体の自然や文化の理解

- ・ ふれあい文化教室等、派遣人材を活用した体験・探究学習の積極的实施
- ・ 田原地区や宇都宮市の地理的・文化的特色を他地域や他国と比較・関連付けする取組

ウ 宇都宮市の未来を自分事として考える活動

- ・ 宇都宮市の地理的・文化的特色の理解をもとにした「これからの田原」「これからの宇都宮」を考える活動の実践